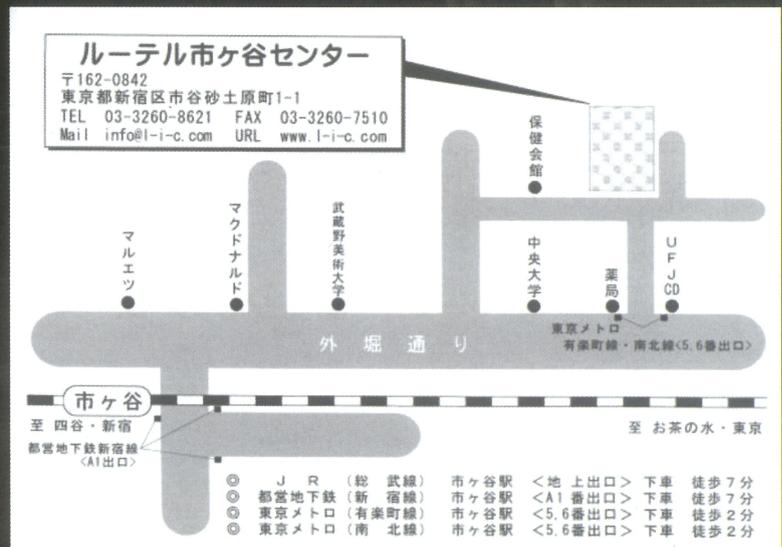




J.S.バッハの《マタイ受難曲》は、キリストの受難と十字架の出来事を、『マタイによる福音書』の言葉に従い、音楽のうちに深く刻み込んだ信仰の証しです。福音史家の朗唱に導かれ、群衆の叫びや弟子たちの弱さ、ペトロの否認、そして十字架の道行き迄の情景が描かれます。その中で歌われるコーラルやアリアは、信徒の祈りと嘆き、また希望を担い、私達をも物語のただ中に引き入れます。バッハはこの大いなる音楽をもって、礼拝の場を神の言葉と恵みの光で満たそうとしました

聖金曜日は、主イエスが十字架にかかれた日を祈念する、キリスト教会暦において最も厳粛な日です。受難曲は、本来この日の礼拝において、聖書朗読と祈りとともに奏されました。今日、私達がこの日に《マタイ受難曲》を聴くことは、単なる音楽体験ではなく、バッハが生きた信仰と、今も生きて働かれる神の救いの御業に与ることを意味します。ルター派の敬虔な信徒だったバッハの作品を、ルーテル教会においてこの曲が響くことは、宗教改革の精神を受け継ぐ場において、受難の出来事とともに黙想する特別な恵みでもあります。

バッハは受難の悲しみを通して、赦しと復活の希望を示しました。その音楽は、聴く者を悔い改めへと招き、また慰めと新しい命の約束へと導きます。この演奏会が、皆様の祈りを深め、信仰を新たにし、主の受難と復活の神秘とともに味わう時となりますよう、祈りを深めてお届けします。



チケットお求め・お問い合わせ 03-3756-1672 河合